花と共に婦人部活動

大島漁協婦人部
松井すが

1．地域と漁業の概要

私達の住んでいる大飯町大島は、福井県の最南西部に位置し、京都に近く、歴史と文化に富み、重要文化財など数多く残され、山水の美にも恵まれた地域です。

かって、陸の孤島と呼ばれていた大島地区は、海岸線に沿って７つの集落が点在し、原子力発電所誘致以後念願の橋がかかり、半農半漁の自給自足で生活してきた大島も発電所見学や文化財見学のほか、民宿・旅館業・渡船業を営む漁家や、地区外へ勤務する人が多くなり、地域も生活も大きく様変わりしました。

私達の所属する大島漁協は、正組合員 170名、准組合員９名で組織されており、漁業形態は延縄、刺網、底曳、定置網、真珠養殖漁業ですが、５年前から漁村青壮年部が中心となってタイの養殖漁業に取り組んでいます。

2．婦人部の概要

私の婦人部は、昭和32年に結成致しましたが、47年に再結成し、現在部員は98名です。

これまでの主な活動は、貯蓄、共済等漁協事業への参加・協力、他グループとの料理技術の交換並びに魚食普及、環境美化運動、福祉施設の催しや献血運動への参加・協力、各種イベントへの参加・協力などです。また、昨年は活動の輪を広げたいと思い、婦人の地位向上を目指す「大飯町女性ネットワーク」に加入しました。

今、高齢化が大きな社会問題となっていますが、私達の地域も同様で、これが悩みの１つでありますが、高齢者に対し、「自分でできることは自分でするように、会合等には進んで参加をするように」と婦人部が声をかけ、励まし合っています。

3．活動の動機

地域の概要にて申しましたとおり、大島地区は７集落が点在していることから、各集落ごとに活動を推進しており、今回は私の住む「西村」を中心に発表させていただきます。日頃の集まりの中で、「観光地となった大島に、何か物足りなさを感じる」「婦人部が地域でできることがないか」等の意見が出ました。これらの出された意見について話し合った結果、「訪れる方々を花で迎えよう」との結論に達し、「花を植えましょう」と取り組み始めたのが14年前です。部員全員で取り組むのが理想ですが、有志を募ったところ西村の部員31名のうち10名と他集落から12名が集まり活動開始となりました。

4．実践活動の状況及び成果

まず、①何の花を何処に植えるか、②その種或いは球根はどこから手に入れるのか、③その資金はどうするかについて話し合いました。

①についてはすぐに決まりました。　寒さに強く、花の少ない冬に咲くスイセンです。しかもあちこちにチラホラと自生しており、県花でもあります。植える場所は観光バス

が通る沿道や名所、公共施設に決定です。

②については、自生しているスイセンを掘り起こすことも考えましたが、余りにも手間がかかりすぎることから頭を悩ませましたが、普及センターの先生に相談を持ちかけたところ県の園芸試験場で頂けることになりました。園芸試験場は大変に遠いのですが、皆なで球根を掘り起こしに行き、それを持ち帰り、球根を１つひとつはずして日陰に休ませておき、ようやく植える時期の９月になりました。半農半漁なので、農作業に慣れているとはいえ、雑草が延び放題になっている土手等を耕し、 1,000個の球根を植えるのはなかなかでした。まだ暑い９月の作業でしたが、力を合わせて植え終わった時の皆なの表情は今でも脳裏に刻まれています。

しかし、漁業も資源管理が大切なように、花も管理が大切です。忙しい日々の中で草取り、中耕などの手入れを行いました。甲斐あって、12月には初めての白い可憐な花が一面に咲きました。翌年５月には球根を掘り起こし、９月にはそれを植え、その間は草取り、中耕などなかなか大変な仕事ですが、作業をしながらの会話はいろいろな情報交換の場となりました。学校での作業は先生と話し合う機会ともなり、それが家庭においては子供達との会話が今まで以上に弾み、皆なの喜びとなりました。この「花を植えましょう」の運動が大島の全集落に広がり、今では各家庭にまで植えられています。また、大島の隣地区である佐分利・本郷地区や母親クラブ（ＰＴＡ活動）などの依頼で、球根を分けたり、植えに行く等し、可愛い白い花を見る事ができるようになりました。

このように、大島地区内外にスイセンの花が見られるようになったのは、新聞、テレビなどで私達の活動がたびたび報道されたお陰だと思っています。

１昨年のことですが、スイセンの花が好評だったことに気をよくした婦人部では、今度は町花である「つつじ」を植える計画をしました。これが母親クラブ（ＰＴＡ活動）の耳に入り、共同作業となりました。しかし、スイセンの球根は無料でいただけましたが、つつじの苗木は購入せねばならず、その資金面の調達が問題となりました。ところが運よく、私たち婦人部は県の補助事業に乗ることができ、 100本の苗木を購入し、母親クラブは町の補助を得て50本の苗木を購入し、これをメインストリートであり、かつ見晴らしのよい学校と漁協の傾斜地に植えたのです。つつじは、スイセンと異なり、毎年掘り起こして植え替える作業はなく、草取りと肥料を施すだけで手間がかからず喜んでいました。ところが植樹した一昨年も昨年も日本全国が干ばつに見舞われ、私たちは水やりに東奔西走しました。にもかかわらず、水はけが良いという利点の傾斜地が欠点となり、枯れてしまったのもありますが、母親クラブと力を合わせて管理していこうと思っています。冬に訪れる観光客はスイセンを、春・夏に訪れる観光客はつつじでもてなせるよう活動してまいります。

５．波及効果

冬に咲くスイセンは、大島地区の公民館、学校、そして各戸、さらに隣の地区までも広がり白い可憐な花を咲かせ、その花はほんのりとした香りを漂わせ、住民や観光客を楽しませ、和ませてくれます。また、植える土地のない施設や警察署等には切り花を持参し、喜ばれています。

春に咲くつつじは、花が咲き終わると緑の葉が賑わいを見せてくれます。

6．今後の課題

つつじは植えてからまだ2年ですので刈込みはしていませんが、私たちは今後刈込みの技術も身につけ、夏にはスッキリと刈込みしたつつじに「涼」を感じていただけるようにしなければと思っています。

また、スイセンもつつじも雑草には大変悩まされています。そこで私が提案したことは、「つつじの間にハーブを植えてみては？」ということです。これは、一昨年県が実施した異業種グループとの交流研修会に参加する機会を得、石川県のハーブ研究家を訪問し勉強させていただく事ができましたが、その帰りにいただいたハーブの苗2本を大切に育てたところ昨年では畳3枚ぐらいに増やすことができました。これにヒントを得たものです。少しずつですが、今年から取り組むことにしています。また、会合の時に皆なでハーブティを楽しみたいと考えています。

県花のスイセン、町花のつつじ、それにハーブを今後とも心を込めて育て、さらにこれらを地域のイベントなどに活用できるようにがんばります。

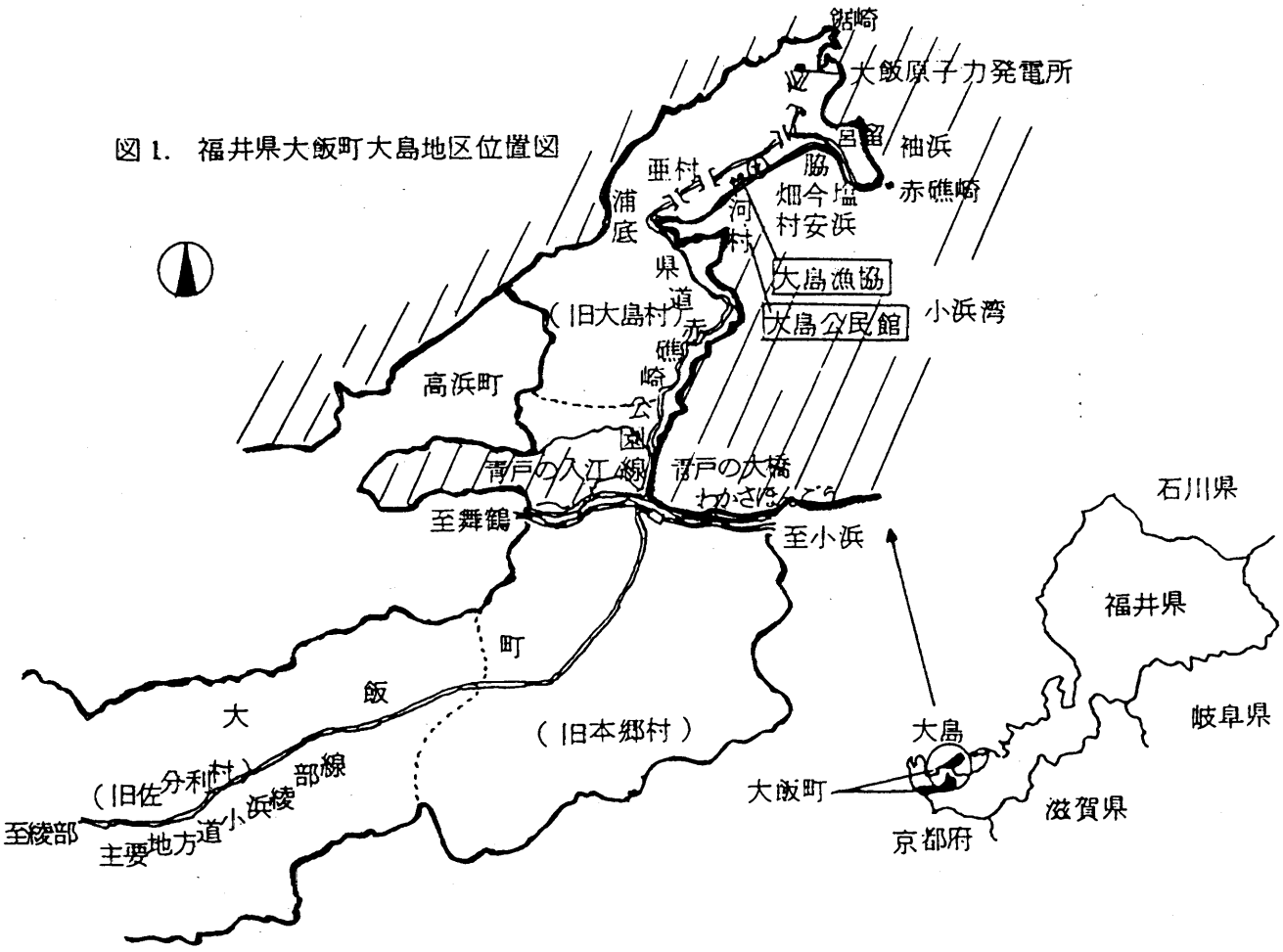

図1. 福井県大飯町大島地区位置図